



〈テーマ〉こどもと若者のサードプレイス ~あなたらしいちょうどいい日々を~

こうわシンギュラリティ高校ひまわりプラザ1階ロビーで、今年3回目の町長タウンミーティングを開催。教育や医療を通じて居場所づくりに取り組むお二人とともに、今、求められるこども・若者のサードプレイスのかたちを探りました。

海田町長 竹野内 啓佑

10年後、誰もが憧れるまちをめざし、日々奮闘中。お気に入りのサードプレイスは、屋外では癒やしの空間「瀬野川河川敷」、屋内では読書に没頭できる「カフェ」。



医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科院長
岡本 佳明さん

院長を務めるひまわり歯科は、日本歯科医師会が提唱する地域支援型多機能歯科診療所のモデル医院。管理栄養士が常駐し、口腔ケアの観点から栄養指導を行うなど独自の取組も行っている。

学校法人幸和学園理事長
新谷 耕平さん

町内でこうわ認定こども園と放課後児童クラブを運営する学校法人幸和学園理事長。この春、通信制高校のシンギュラリティ高校を開校。自由度の高い独自のカリキュラムで新しい教育方針を提案している。

医療と教育、それぞれのサードプレイスづくり

まずはゲストのお二人が現在取り組んでいるサードプレイスづくりの事例についてご紹介いただきました。

最初に登壇したのは岡本 佳明さん。持続可能な地域医療をめざし、歯科医師、歯科衛生士の教育にも力を注ぐ一方で、地域の「健康を支える場所」としての居場所づくりに取り組んでいます。



平成22年にひまわり歯科医院を開業。その後、多様化する歯科ニーズに応え医療法人化。現在は総勢140人のスタッフを抱え、後進の育成に力を注いでいる

「病院に行くほどじゃないけど、相談したいことがある」そんな時に気軽に行ける場所をつくりたいと思い、令和元年に「暮らしの保健室すまいる」を立ち上げました。令和4年には「タニタカフェ」さんのコラボカフェ「ひまわりカフェ」もオープン。地域の人の居場所として多くの人に利用いただいています」と顔をほころばせました。



カフェではひまわり歯科の管理栄養士や調理師が調理する栄養バランスの整った健康ごはんを提供、骨密度や体脂肪量の測定や健康相談もできる

続いて登壇したのは、学校法人幸和学園の新谷 耕平さん。

自身が運営することも園の卒園児が、小中学校で不登校になっていると相談を受けたことをきっかけに、平成28年、通信制高校のサポート校の運営をスタートしました。



3つの学校法人を抱える新谷さんは、海田町で2つのこども園と1つの児童クラブを運営。令和7年4月からひまわりプラザのネーミングライツ・パートナーも務める

ニーズは想像以上に大きかった一方で、学費の負担やスクーリングの制約といった課題もあったことから、新谷さんは通信制高校の設置認可を取得し、「シンギュラリティ高校」を設立しました。

現在、広島県内には約8万人の高校生がおり、その約1割の8千人が通信制高校を選んでいるとした上で「これから学びのスタイルはもっと多様になっていくはず。だからこそ、8万人の高校生全員にとって『魅力的な選択肢』となる学校をめざしたい」と抱負を語りました。



サードプレイスに求められるもの

お二人の取組を聞いた上で、後半はさらに「サードプレイス・居場所づくりに何が必要か?」という話題に発展しました。

医院で働く多くの女性を見て、女性が職場とプライベートを切り分けることの難しさを実感したという岡本さんは「職場にこそ居場所が必要」と語ります。その思いから、一人一人に役割と輝ける出番がある「村」のようなコミュニティづくりを大切にしているといい、具体的には出産や育児、介護など、ライフステージに応じた働き方ができるよう職場環境を整えるなどして、産休後の復職率はほぼ100%を達成したそうです。

「ひまわり歯科には女性のロールモデルがたくさんいる。若い人たちにとって『こんな働き方もできるんだ』という希望になっていると思う」と、笑顔で語りました。

一方、新谷さんは、スマホでAIやDX、動画編集ソフトまで自在に使いこなす10代の姿を見て、「今の10代は感覚も価値観も僕たちの世代とはまるで違う。おそらく彼らは用意された居場所は求めていなくて、自分たちの手で居場所をつくらうとしているのでは」と語り、だからこそ「大人は行き止まりをつくらず、彼らがのびのびと力を発揮できるように、可能性をひらいてあげたい」と力を込めました。

海田町の強みを生かしたサードプレイスとは

サードプレイスづくりをめぐる話は尽きない中、最後に町長から「海田町ならこんなサードプレイスや居場所をつくれるんじゃないか」という提案を聞かせてほしいと求められ、岡本さんは「海田町は若い世代も多いので、その感性やエネルギーを引き出すようなアートのある風景をもっと増やしてほしいですね」と回答。



新谷さんも「人口や面積の広さなど、恵まれた経営資源を生かして大学や大学院のような高等教育機関を誘致してほしい。高等教育機関があれば研究所やIT企業も集まってくるなど発展性もあるし、若者はもちろん、中高年の学び直しの場にもなる」と、海田町の未来に期待をにじませました。

それぞれの提案を受け、町長は「お二人のような方々と官民、民の連携を生かしながら、仕事や子育て、教育の場における居場所を増やして、『ひとにやさしい、ヒューマンスケールなまち』を、皆さんと一緒につくっていきたい」と抱負を語り、イベントを締めくくりました。

総合計画の意見募集中!



くわしくはこちら
かいたブランド課
(役場3階)
☎823-9212
FAX.823-9203



海田Monthly トピックス まちの話題

7/17 9/18 地域活動(ボランティア)について考えました

海田町社会福祉協議会ボランティア人間塾で「地域活動について考える講座」をひのうらセンターで開催。

町内の自治会や広島市社会福祉協議会の話聞いて、よりよい地域活動するにはどうしたらいいかを皆で話し合いました。

参加者の声

- ① 新しい取り組みをされていることはすごいですね。参考になることも多かったです。
- ② 他の自治会の活動が聞いて良かった。勉強になりました。
- ③ 将来の我が自治会の姿だと思いました。
- ④ 自治会があることの重要性を痛感しました。



☎ 社会福祉課(役場2階)
☎823-9207 FAX.823-9627

7/30 7/31 2DAYSイングリッシュレッスン

2日間の通いによる「2DAYSイングリッシュレッスン」を開催。

町内の小学校2~6年生28人が参加し、外国人講師とゲームやクイズ、歌などを英語で体験。

2日目には、ホールで発表会が行われ、参加者一人一人が英語で発表し、レッスンの成果を保護者に披露。修了証書ももらったこどもたちはとても誇らしげで、笑みがこぼれていました!

参加者の声

- ① 修了証書もらえて、うれしかった。
- ② また来年も参加したい。



☎ 海田町国際交流協会(役場1階)
☎823-7611 (FAX兼用)

8/15 東京2025デフリンピック 全国キャラバンPRカーがやってきました!

11月15日(土)~11月26日(水)の12日間「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」が開催されます。

今年100周年を迎えるデフリンピックは「きこえない・きこえない人のためのオリンピック」で、日本では初めての開催。広島県ゆかりの出場選手・監督(計9人)が出場されます。ぜひ一緒に応援しましょう!



第25回夏季デフリンピック▶
競技大会ホームページ



☎ 社会福祉課(役場2階)
☎823-9207 FAX.823-9627